



【表紙の人】

「産直の里内牧」の森田果樹園を支える森田充さん(右)と仁さん。息の合った仲のいいご兄弟です。8月上旬、豊かに実ったご自慢の梨の下で撮影しました。

たべる、つながる、そだてる

地域に根づいた自慢の食!

CONTENTS

- 巻頭エッセイ.....02
- 1 春高生の胃袋をわしづかみ!.....04
- 2 産直の里内牧物語.....08
- 3 給食は“教科書”なのです.....10
- 4 地場野菜をおいしく食べよう!.....12
- 5 “藤の里”ならではのご当地グルメ2選.....14

みんなて

シティセールスシンボルマークを使おう!



+1のあるまち kasukabe



この情報誌には、写真が動くAR動画を掲載しています。

シティセールスシンボルマークのアイコンのある写真でAR(エーアール)動画を楽しめます。スマートフォンやカメラ付きタブレットでAR動画を再生するには、無料アプリ「Aurasma」(オーラズマ)をインストールしてください。詳しくは市公式HPへ。

食の向こう側にいる生産者や作り手の姿をイメージすることで、おいしいものがさらにおいしく感じられるようになる。

農家の人とおしゃべりを楽しむうちに野菜に関する興味がどんどん深くなっていきました。
食には「人と人をつなぐ力」があるのかもしれない。私は幼い頃、群馬の山あいにある祖父母の家によく遊びに行っていたのですが、当時の田舎町では、近所づきあいの中心に「食」があった気がします。近くの農家の人が「よかったら食べ」と毎日のように野菜を持って来てくれて、おばあちゃんはそのたびに「いただいでばかりじゃ申し訳ないから、これ持っていきなよ」と、

煮物やお菓子を手渡ししていました。
現在の都会ではそのような風景はめったに見られなくなりましたが、都会と田舎の要素がバランスよく混在している春日部には、まだまだ食を通じた昔ながらのコミュニケーションが残っているのうれしいです。
食べ物向こう側には作り手の努力や情熱が存在しています。時にはそれを想像しながらお食事をいただき、おいしいものがさらにおいしく感じられるようになると思います。



+1のあるまち kasukabe

春日部市立上沖小学校、大沼中学校卒業。大学卒業後、英会話学校講師等を経て、シンガーソングライターに。2013年に「かすかべ親善大使」に任命され春日部市の歌「心の空」を制作。J:COM「街の魅力再発見!ぶらっと♪春日部/いわつき」のパーソナリティとしても活躍中。

巻頭エッセイ

あえか

(かすかべ親善大使・シンガーソングライター)

春日部にはおいしいものがたくさんあります。私の最近のお気に入りには、地元野菜をたっぷり使った自家製スムージー。毎朝ミキサーで野菜をジュースにして飲むようになってから、すごく調子がいいんです。
野菜は、壁に生産者の写真が貼られていて、安心感があるので、「道の駅 庄和」で購入することもあります。また、最近はお犬の散歩をしながら、畑のそばに設置された「庭先直売所」をチェックするのも密かな

楽しみになっていきます。
テレビ番組で市内の直売所をレポートさせていただいた時、「庭先直売所の野菜はいつも大人気で、昼前には売り切れてしまう」という話を聞いて、あらためて注目するようになりまし。新鮮さや値段の安さもさることながら、生産者の方と言葉を交わす機会が持てるのも直売所ならではの魅力です。農作業の苦勞話を聞いたり、旬の食材を使ったオースメの料理法を教えてもらったり。